

1 内容

- (1) ねらい 学校における「いじめ防止」に関する取組の強化を図るため、都立高校生が、都教育委員会に施策を提言する。
- (2) 日程等 日 時：8月4日（火）午前9時30分～正午
場 所：二庁ホール 参 加 者：高校生委員11名 傍 聴 者：25名
- (3) 次 第 ア（挨拶）教育委員会挨拶
イ（報告）これまでの協議の概要について報告
ウ（協議）「いじめ防止に必要なこと」の協議・検討
エ（提言）高校生いじめ防止協議会からの提案・意見書の提出

2 高校生委員の課題意識

- ・自分の言動を客観視すること
- ・いじめの定義を正しく理解すること

- ・自分の考えや気持ちを言葉にし、**自分の言動を客観的に振り返る機会**をつくることができないか。
- ・子供たち自身が**いじめの定義を正しく理解し、自分事として考える機会**をつくることができないか。

3 協議の内容

（1）「自分の言動を客観視（メタ認知）し、言語化するための方法についての検討」

- ・ **日記や振り返りシートを活用し**、自分の言動や気持ちを言葉にして振り返る機会をつくる。
- ・ **A I 等を活用して**、自分の考えや気持ちを言語化し、自分では気付きにくい考え方や言動を振り返る。
- ・ 自分の言動を相手の立場から捉え直すなど、**自分自身を客観的に振り返る活動を取り入れる。**
- ・ 日記や振り返りシートなどを継続的に活用できるよう、**取り組みやすい内容や方法を工夫する。**

（2）「いじめの定義を周知して、共通認識をもつための方法についての検討」

- ・ 「いじめ総合対策【子供版】」を活用し、具体的な事例を通して、**いじめの定義について考える。**
- ・ **授業や話合いの活動を通して、いじめを自分事として考える活動を取り入れる。**
- ・ **ポスター、画像、動画等を活用し**、いじめの定義を子供に分かりやすく伝える。
- ・ **SNS上のやり取りなど身近な事例を取り上げ**、インターネット上でもいじめが起こり得ることについて考える。

4 高校生委員の考え

(1) 自分の言動を客観視（メタ認知）し、言語化するための方法についての検討

- ・ 日記を書く。AIツールなどを用いて、自分の考えを立ち止まって考える。

- ・ 日記や振り返りシートを活用し、自分の気持ちや言動を言語化する機会を設けてほしい。
- ・ 自分自身を客観的に振り返る力を育てる学習やプログラムを実施してほしい。

- ・ 自分の言動を振り返ることを大切にする社会全体の意識を広げてほしい。
- ・ 子供たちが安心して自分自身と向き合える環境づくりや取組を進めてほしい。

自分たち
(小中高生)が
すべきこと

学校で行って
ほしいこと

社会にお願い
したいこと

(2) いじめの定義を周知して、共通認識をもつための方法について検討

- ・ 「いじめ総合対策【子供版】」を活用し、いじめについて関心をもち、正しく理解する。
- ・ いじめの定義を知り、自分事として考えるとともに、互いに話し合う機会をもつ。

- ・ 「いじめ総合対策【子供版】」やいじめの定義について学ぶ機会を定期的に設けてほしい。
- ・ ポスターなどを活用し、いじめの定義を分かりやすく周知してほしい。

- ・ SNSや広報等を活用し、いじめの定義を広く周知してほしい。
- ・ 社会全体でいじめを見過ごさず、正しい理解の下で行動する意識を広めてほしい。

5 今後、高校生委員が取り組むこと

- (1) 自分の言動や気持ちを振り返ることのできる日記のフォーマット作成及び普及
- (2) 「いじめ総合対策【子供版】」やいじめの定義を周知するポスター等の作成及び発信
- (3) いじめの定義を正しく理解し、自分事として考えるための授業案の作成及び実施

6 令和7年度高校生委員によるいじめ防止に関する授業の実施について

- (1) 実施日 令和8年7月15日（水）
- (2) 実施方法等 オンライン 30分間程度で実施
- (3) 授業者 令和7年度の高校生委員
- (4) 対象生徒 全校生徒（中学生・高校生）

(5) 成果

- ・ 生徒がいじめ問題を自分事として捉えることができた。
- ・ 学校として、相談することの大切さを周知することができた。

(6) 課題

- ・ 対象者の発達段階を考慮した授業の工夫が必要である。